

教育・保育理念

・自分も友だちも大切に作る心の育成・学びの芽の育成・自分の可能性や能力を十分に発揮できる力の育成

重点項目・・・子どもが安心して生活し、主体的に遊んだり人との関わりをとおして、学びの芽やコミュニケーション能力を育てる。また地域とのつながりを大切にする。

重点内容	自尊心を土台に自分も友だちも大事に思う気持ちを育てる
	好奇心や探求心が発揮できる環境をつくる。また体をコントロールしたり、しっかりと歩ける体力をつける
	保護者の子育てを支え、信頼関係を築く。また地域の保護者への支援を積極的に行う
	地域とのつながりを通して歴史や文化・特徴などに触れ関心を持つ
	「チーム錦西」として協力しあい、よい職場環境をつくり教育・保育の質の向上を目指す

重点内容	評価項目	自己評価	とも園関係者評価
自尊心を土台に自分も友だちも大事に思う気持ちを育てる	子どもの言葉や行動から一人ひとりの子どもの気持ちを想像し、共感したり丁寧に関わり子どもと信頼関係を築く。 ありのままの姿を認め(その子なりの表現や良さを認め)認められたという経験から自信を持ち自己を十分に発揮できるように関わる。 友だちの思いや気持ちに気づけるようにし、お互いを認め合える関係を作っていくと共に年齢に応じた話し合いを通して自分たちで解決できる力が育つようにする。 異年齢交流を積極的に行い、あこがれの気持ちやいたわりの気持ちが育つような取り組みを行う。	A ・子どもの言葉や子どもの行動から、気持ちを想像したり、思いを受け止め丁寧に対応することができた。 A 友だちとの関わりの中で、けんか等のトラブルがあったときは年齢に応じて双方の思いが出せるよう、また友だちの思いも築けるようになってきた。 A お楽しみ会や作ってあそぼうなど異年齢交流の機会を増やし、大きい年齢の子の姿にあこがれ真似をしたり、小さい子に優しく関わる姿も見られている。 A	A ・異年齢交流も、工夫しながら活発に行っている様子が伺えた。 A その中で大きい年齢の子に対するあこがれの気持ちや年下の子をいたわる気持ちが育っている。 A これからも思いやりの気持ちが育つ取り組みを行ってほしい。 A
好奇心や探求心が発揮できる環境をつくる また体をコントロールしたり、しっかりと歩ける体力をつける	・子どもの発達や興味を持っていることを理解し、子どもが自分からやりたくなる環境を用意し、継続してあそべるようにしていく。また実体験や五感(見る、聞く、嗅ぐ、触れる、味わう)を活用した体験を大切にする。 国籍や文化の違いを尊重し、他の国の言葉や文化に触れる機会を持つ。 楽しく体を動かす遊びをとおして、しなやかな体づくりやしっかりと歩ける体力をつける。(転んでも手が出る力や避難場所まで歩ける力)	A ・野菜を育て目の前で調理して食べたり、泥や土、植物等に触れる等の実体験を大切に、しっかりと遊ぶことをとおして学びの芽を育てるようになってきた。体を動かす遊びにも毎日取り組み、歩く力は向上している。 B 他の国の文化や言葉に触れる経験はあサミット給食やあいさつの歌をとおして経験したが、今後の社会を考えると次年度はもっといろいろな経験ができるようにしたい。 A	A 遊びや実体験をとおして子どもの自由な表現や成長を促している。 A ヨガやリズム運動、散歩など体をしっかり動かすことで健康な体づくりを行っている。他の国にルーツを持つ友達とも仲良く遊んでいる。 A
保護者の子育てを支え、信頼関係を築く また地域の保護者への支援を積極的に行う	子どもの思いや育ち、教育・保育で育つ力等をフォトフレームや写真等で見える化して保護者に伝える 送迎時にあいさつや一声かけたり、懇談等で保護者の思いを傾聴する等丁寧な対応をとおして信頼関係を築く。 園庭開放やリフレッシュ預かり等を利用する子どもや保護者に積極的に声をかけ、クラスの子ともたちとも交流する	A ・キッズビューで保育のねらい、取り組み内容、子どもの姿を日々配信してきた。また写真の配信を週1回は実施できるようにした。 A 保護者と会ったときは、積極的に声をかけるようにした。クラス懇談会はあまりゆっくりと時間を取れなかったが、個人懇談会で子どもの姿について話を聞く機会を持つことができた。 A 一時預かりを利用する方もいて、地域の保護者のかたに喜んでもらった。	A ・園での日常の様子を共有してもらえてうれしい。 A ・園庭開放は今後もずっと継続してほしい。 A
地域とのつながりを通して歴史や文化・特徴などに触れ関心を持つ	地域の文化財や地場産業などに関わる機会をもち、地域に親しみや関心を持てるようにする。 地域の子育てサロンへの参加や世代間交流を子どもも大人も楽しく行う。 小学校と交流し、育ちと学びの芽をつなげる	B ・工事の関係あり、文化財への見学等は今年度も実施できなかったが散歩に出かけたときに歴史を感じる街並みを知ったりはできた。子育てサロンへは職員の体制が可能な限り出向いて地域の方との交流を図った。小学校との交流を2回実施することができた。 A A	B ・地域文化財などは、少しずつ再開していったらよいのではないかと。 A ・小学校との交流は、小学校を身近に感じたり小学校への期待も高まるので良い。 A ・地域のサロンへの協力は感謝している。
「チーム錦西」として協力しあい、よい職場環境をつくり教育・保育の質の向上を目指す	教育保育の質の向上のために公開保育や園内研修で積極的に意見を出し合う(語り合う園内研修の実施)また不適切な保育の防止のため、人権研修を適宜行う。 安心・安全な環境づくりのため、災害や危機管理に関する研修や訓練を随時行う。	A ・堺市内の就学前施設の方が来られ、公開保育を実施し、保育内容について検討した。子どもの人権や不適切な保育の防止等の園内研修も随時行った。 A ・管理マニュアルの徹底や災害訓練、施設の安全点検、リスクマネジメント委員会の実施等安全・安心な環境で保育を行えるようにした。 A	A ・職員同士のつながりも子どもたちの保育に影響するので今後も大事にしてほしい。 A ・防災訓練などもしっかり行っている。 A

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
他の国の文化や言葉などに触れる機会が少なかった。	・ICTを利用し、他の国の生活や文化を知っていく。また歌や遊びを通して楽しく言葉に触れていく。
コロナ禍前に行っていた山口家や包丁の向上に行くことができなかった。	・工事も終了したようなので、年長児を中心に地域の文化や産業に触れる機会を持つ。

園長より  
保護者の皆様のご協力には日々大変感謝しています。今後も子どもたちが「明日も園にいきたい」と思ってもらえるような取り組みを職員で力を合わせて行ってきたいと思います。

